



## 「防災セミナー」を開催



### 【スローガン】

**自然災害と感染症から組合員と乗客の命を守るため、  
感性と感覚を研ぎ澄まし、公共交通・輸送サービスとしての  
事前防災運動を職場からつくり出そう！**

9月1日の「防災の日」に合わせ、JTSUは防災セミナーを開催しました。職場の防災士を含めた64名の仲間が参加し、想定される災害から組合員と乗客の命を守るための事前防災」の取り組みの重要性を意思統一し、11月5日の「世界津波の日」には職場や地域から実地訓練をつくり出すことを確認しました。

2011年の東日本大震災をはじめ、近年の自然災害（豪雨・洪水・台風など）は私たちの想定をはるかに超え、鉄道施設を含めた被災規模も拡大しています。その中で仲間や家族・乗客の命をどのようにして守るのかは、私たち鉄道従事者にとっても重要な課題です。また、コロナウイルスの感染拡大が世界に広がっている中で、今後予想されている首都直下地震や頻発する豪雨災害による洪水・水没が発生した場合、自治体等が設置する一時避難場所への避難が困難になることも予想されます。防災・減災の基本的な考え（「自助・共助・公助」）を踏まえ、今から組合員と共に災害への「構え」と「備え」をつくるのが重要です。

JTSUはこの「防災セミナー」を新たな防災・減災の取り組みの出発点と位置づけ、鉄道・バスの仲間たちと共に、防災・減災に対する人間の感性と感覚を磨き、災害から命を守る取り組みをつくり出していきます。



**激甚化・複合化する災害から命を守る備えをつくり出そう！**